## ◆新型コロナウイルスの予防接種について

新型コロナウイルス感染症は、エアロゾル感染、飛沫感染、接触感染を主な感染経路とし、感染すると２～３日で発熱や喉の痛み、頭痛、倦怠感（だるさ）などを発症することがあり、年齢が上がるにつれて重症化リスクは高まるといわれています。感染から回復した後にも症状が持続したり、新たに出現する罹患後症状（後遺症）が現れたりすることも報告されています。

令和５年 5 月 8 日より 5 類感染症となり、これまで特例臨時接種として行ってきた予防接種は、**令和６年度からは 65 歳以上を対象とした定期予防接種（B 類疾病）に位置づけられました。**

接種は強制ではなく、ご自身の判断で行うものです。ワクチンの効果や副反応等を十分ご理解した上で接種を受けてください。

［効果］感染した場合の入院や死亡などの重症化予防

［主な副反応］（接種後数日以内に回復）

**注射部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱、リンパ節の腫れ**など。

→発熱や倦怠感等の症状が出た場合は、適宜、解熱鎮痛薬を使用し、よく休みましょう。副反応による発熱は 1～2 日で消失しますが、続くようであれば診療所にご相談ください。

［稀に起こる重大な副反応］

**アナフィラキシーショック（強いアレルギー症状）、心筋炎、心膜炎、ギラン・バレー症候群**など

→接種後に胸の痛みや動機、息切れ、むくみ、手の力が入りにくい、しびれなどの症状が現れたら速やかに受診してください。また。これら以外の症状が副反応として出る可能性があります。接種後に普段と変わったことがある場合は、医師にご相談ください。

［接種後の注意］

ワクチン接種後、特に**接種直後の 30 分間は副反応の出現に注意**しましょう。そのとき何ともなくても、24 時間は体調の変化等がないか観察してください。

接種当日は入浴してもかまいません。接種部位を強く揉んだり、激しい運動をするのは避けてください。

## ◆その他

- 海士診療所では、新型コロナワクチンとその他の予防接種の**同時接種は行いません。**
- 予防接種により健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が生じたとき、国が認めた場合に救済措置を受けられます。お問い合わせは健康福祉課（2-1822）まで。

## ▶ かかる前に予防！を心がけ、かかった時は感染拡大の防止に努めましょう

強い身体づくり

接触感染予防

エアロゾル感染・飛沫触感染予防

飛沫拡散防止

感染症流行時だけでなく、日頃からこまめな手洗いうがいを習慣化しましょう。風邪症状があるときには交流を控えたり、咳エチケットとしてマスクを活用したりしながら、お互いに予防行動をとりあい、家庭内や職場等で感染が拡がらないように気をつけていきましょう。